

湘南慶育病院 中村 京子 (看護師/看護部/4階東病棟主任)

功 績 行事委員会がない現在、職員から出たアイデアを形にしようと、みなをリードし、患者満足度向上に貢献した功績。

推 薦 者 片岡 亮子 (看護部長/看護部)

推 薦 理 由 業務に追われる中でも、常に患者さんに喜んでもらおうというスタンスは全病棟スタッフの手本と言える。

内 容

地域包括ケア病棟看護主任の中村京子は、2017年11月の開院当初から入職し、一般病棟(3階東病棟)でのチーム作り等で看護師長に協力した。2018年5月、地域包括ケア病棟(4階東病棟)開棟のため異動し、2回目となるゼロからの看護単位の組織作り等で看護師長に協力し、同年9月、看護主任に昇格した。

開棟後しばらくは、地域包括ケア病床対象患者が少なく、療養病床や回復期リハビリテーション病床での紹介患者受入れを行い、患者確保に努力した。

開棟1年が過ぎ、職員の中から今年は七夕をやりたいという自発的な意見があり、今回、地域包括ケア病棟初のイベントとして7/4(木)「七夕」を行うことが決まった。昨年の七夕は、飾りつけのみで、患者さんご家族に雰囲気を感じてもらっただけだった。中村看護主任は率先して看護職、介護職を巻き込み、リハビリスタッフへの協力依頼、勤務職員全員での患者搬送等を計画し、病棟職員全員が役割を担当し事故なく終えることができた。

「久しぶりに周りを気にせず笑うことができた」「楽しかった」という患者さんの言葉や「ふるさと」を歌いながら涙する患者さん、また、ベッド上生活が中心になっている患者さんがご家族と並んで座り目線を合わせて笑い合っている姿を目にして、中村主任達は患者さん、ご家族に「七夕」の時間の共有を手伝うことができ、イベントの大きな意義を感じている。

また、二日後の7/6(日)夜、夜勤中の中村看護主任は、慶應義塾大学湘南キャンパスの七夕祭で「天候不順で危ぶまれた花火があがる」という情報を得た。看護管理宿直看護師長と共に交差点側談話室に患者さん達を案内し、10数分間という短時間ではあったが、花火が上がり、患者さんご家族の歓声が上がった。予定外の事ではあったが、夏の風物詩である花火のチャンスをとらえ、入院を余儀なくされた患者さんご家族の思い出づくりに貢献したと考える。